

- 記事内容
- ☆平和行動in広島
 - ☆平和行動in長崎
 - ☆夏休み自然体験2017in尾瀬/
夏休み親子自然体験2017「山の学校inときがわ」
 - ☆埼玉県最低賃金の改正決定について/
9月の行動予定表
 - ☆あけぼのビル

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和の実現を～

2017平和行動in広島・in長崎

平和行動in広島

8月4日(金)～6日(日)に、「平和行動in広島」が開催され、連合埼玉からは15名が参加した。初日は終戦まで軍港があり帝国海軍の要所であった呉市の「海上自衛隊呉史料館」と「大和ミュージアム」を見学。2日目は、午前中に爆心地周辺や平和資料館を見学し、午後からは原爆投下時、広島市内を走っていて被爆するも、現在も使用されている路面電車で広島市内の被爆地を車窓から見学。夕方は、連合主催の平和集会に参加し、原爆投下時の広島市内の様子を聞くことができた。

米国による原爆投下から72年となった最終日6日、広島市は平和祈念式典を開催した。7月7日に国連で核兵器禁止条約が制定されて初の原爆の日。松井一実市長は平和宣言で条約に触れ「各国政府は、『核兵器のない世界』に向けた取り組みをさらに前進させなければならない」と訴えた。特に日本政府には、条約の締結促進をみざして、核保有国と非保有国との橋渡しに本気で取り組むよう訴えた。私たちは、今回の視察で見聞きしたことを風化させることなく次世代に伝え、核兵器廃絶と世界平和に向けて私たちの出来ることから活動をしていく。



平和行動in広島

平和行動in長崎

8月8日(火)～10日(木)に、「連合平和行動in長崎」が開催され、連合埼玉からは13名が参加した。8日は、連合主催(原水禁・KAKKIN共催)の「2017平和ナガサキ集会」に参加し、被爆体験者の丸太和男氏より被爆当時の貴重な話を聞いた。丸太さんからは、「きこの雲の下でおきた実相は、よく知られていない。また、それを証言できる被爆者も少なくなっている。しかし、広島・長崎のことは絶対に風化させてはいけない」と平和や核兵器廃絶に向けた想いが語られた。

長崎に原爆が投下された8月9日には「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」に参加し、午後からは「長崎原爆資料館」の見学と、爆心地公園にて連合長崎青年委員会の皆さんより被爆当時の遺品や石碑の説明をうけながら散策する「ピースウォーク」に参加した。

今回、長崎で自らが見聞きし学んだ原爆被害の実相と、また、その廃絶と世界平和にむけて、私たちも責任をもって運動を継続していかなければならない。




平和行動in長崎

日程		平和行動 in 広島	参加者
1日目(8/4)	<p>■ピースウォーク① 時間 15:45~16:30 会場 海上自衛隊呉史料館、大和ミュージアム</p>		<p>秦 敏晃 (自動車総連/ソーシン労働組合) 早田 明雄 (UAゼンセン/埼玉支部) 増田 友宏 (UAゼンセン/LIXIL/琵琶労働組合) 川瀬 豊治 (JAM埼玉/リズム時計労働組合) 中野 悠子 (情報労連/NTT労働組合北関東信越総支部) 近藤 政行 (情報労連/NTT労働組合北関東信越総支部) 新井 通巧 (さいたま地域協議会/NTT労働組合北関東信越総支部浦和分会) 神永 隆 (川口・戸田・蕨地域協議会/NTT労働組合北関東信越総支部川口分会) 羽田野省三 (県央地域協議会/三井住友金属鉱山伸鋼労働組合) 中山 格臣 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/八木橋労働組合) 田島 晴彦 (本庄・児玉郡地域協議会/埼玉教職員組合児玉大里支部) 国本 典芳 (秩父地域協議会/JP労組秩父・本庄支部) 佐藤 洋太 (連合埼玉青年委員会/ベルク労働組合) 新山 元子 (連合埼玉女性委員会/ヤマト運輸労働組合埼玉支部) 小穴真一郎 (連合埼玉副事務局長)</p>
2日目(8/5)	<p>■ピースウォーク② 時間 9:10~11:40 会場 原爆ドーム、平和公園、平和記念資料館</p> <p>■被爆路面電車乗車学習会 時間 13:00~15:00 会場 広島駅~広島港~原爆ドーム前</p> <p>■連合2017平和ヒロシマ集会 時間 16:00~19:30 会場 上野学園ホール</p>		
3日目(8/6)	<p>■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式典」(広島市主催) 時間 8:00~ 会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前</p>		


①平和行動に参加したのは何回目ですか? ②何を目的に参加しましたか? ③感想

①初めて
②原爆の恐ろしさを見て、聞いて、感じるため
③ピースウォーク、平和ヒロシマ集会等に参加し、原爆の被害の認識をすべて改めさせられた。メディアから情報を得て知っているつもりでいたが、本川小学校平和資料館を実際に見て、語り部の方より話を聞き、戦争の恐ろしさ、原爆の被害の悲惨さを感じることができた。私自身もピリョクだが、平和行動で感じたことを伝えていきたい。平和は当たり前にあるものではないことをずっと心に留めて行動していきたい。




秦 敏晃

①2回目
②原爆投下から72年もの歳月が流れ、国民の意識について
③原爆投下から72年が経過し、被爆者の平均年齢も81歳と聞いた。広島に空にきのこ雲が立ち昇った時の「地獄」を知る方々が少なくなりその惨状を後世に伝えることが難しくなった。私達は語り部になれなくても核抑止力に向けた運動は出来る。折しも国連で「核兵器禁止条約」が採択されたが、日本政府は本気で取り組んでいない。この平和行動で感じたことを広く伝えて核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて自ら運動していきたい。



早田 明雄


①初めて
②72年前、ヒロシマで起こった事実を学ぶため
③戦争についてテレビ・新聞・映画でしか見る機会がなかったが、実際に被爆した小学校や原爆記念資料館の見学、被爆体験者の講演などをつうじて、とても貴重な体験ができた。原爆による被害は、私が想像する以上に凄惨なものだった。同じ過ちが繰り返されないよう、今後は私たちの世代が次世代に語り継いでいかなければならないと身に染みて感じた。



増田 友宏




①初めて
②ノーモア ヒバクシャに込められた願いについて
③戦後72年目の今年、被爆者の皆さんの心からの願いが世界の多くの国々を動かし、核兵器禁止条約が生み出された。しかし、唯一の被爆国である日本政府はその交渉会議にさえ参加しないという姿勢を打ち出したことは記憶に新しいところである。私自身、多くの疑問、関心を持つ機会となった。広島市の爆心地周辺の史跡を巡り、当時の写真、遺品を眺め、語り部の話を聞くことだけでも、広島に被爆者の方々の平和への思いの深さを知った。私が今回の活動で感じたことは、この地を訪れたすべての人が、身近な人にこの戦争の悲惨さ、核の恐ろしさを伝えていくことが大事ではないかということである。



川瀬 豊治

①3回目
②観光ではなく、原爆によって起きたこと、今行動していることを知っておきたいと思った。
③平和祈念式典には各国の大使や観光客の外国人の人がたくさん訪れていた。式典に参加するだけでなく、72年前に人間がした愚かな行為による地獄のような惨状を見て行って欲しい。感じて行って欲しい。今でも後遺症に苦しむ人がいて今年の式典には新たに5,530人の原爆死没者が追記された。72年もの長い間苦しんで来たのだと思う。そういう事がまだ続いている事を忘れてはいけない。「これだけ技術が進歩し核兵器を保有している国があり、世界のどこかで戦争をしているなか、なぜ原爆が使われないか、広島が、長崎がこの惨状を伝えてきているからだ」という言葉が心に残る。



中野 悠子

- ①初めて
- ②現地を訪れ学びと経験によって平和について考えてみようと思った。
- ③テレビ・映像等では見ていたが、実際に被爆した建物等を見ると、改めて72年前の原爆投下で何が起こったかを思い浮べた。平和祈念式で広島市長の平和宣言の中で、今や世界中から訪問者が年間170万人を超える平和記念公園だが、これからもできるだけ多くの人々が訪れ、被爆の実相を見て、被爆者の証言を聴いていただきたいと言われていた。核兵器廃絶への願いを受け止め、平和主義を明記している日本国憲法を守り、恒久平和実現に向けて願いをこめる。



近藤政行



折り鶴献納

- ①3回目
- ②広島現状を学習するため
- ③どの平和行動でも共通する事です「語り部」の方の体験談については風化させずにしっかり引き継いでいかなければならないと改めて感じた。私自身、私の親も戦争を知らない世代であり身近に体験談を話したり聞いたりすることがない。この日本だけでも平和行動の思いを風化させずに二度と紛争等を起こさない、起こさせないという気持ちで、私自身が「語り部」となる気持ちで行動していく。



羽田野省三

- ①4回目
- ②被爆地広島での間接体験と連合埼玉の仲間との交流
- ③連合広島の案内で、被爆路面電車乗車学習会に参加し、連合広島の仲間によるナレーションで、車窓から被爆建物等を見ることができた。復興した平和宣言都市広島からは考えられない過去の悲しい歴史があったことを深く胸に刻むことができた。原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に合わせて、現地の案内付きの広島訪問は今まで以上の有意義な学習となり、世界の恒久平和をより希求する思いとなった。



田島晴彦

- ①3回目
- ②原爆死没者への慰霊と平和について考えを深めるため
- ③私が今回の参加目的として重きを置いていた部分は、平和についてより深く考えることである。改めて様々な場所を訪れ、話を聞き、歴史を学んでいく中で、最初に衝撃を受けたのは本川小学校平和資料館である。爆心地から僅か400mの位置にあったこの場所は、児童を含め大勢の方が犠牲になり、資料館となっている旧校舎に残る爪痕は原爆の恐ろしさを痛感させられるものだった。さらに、そこで出会った語り部さんと、その話真剣な表情で耳を傾ける学生たちの姿が強く心に残った。私が声を届けられる範囲は限られているかもしれないが、今後更に平和についてより深く考え、関わっていきたく感じた。



佐藤洋太

- ①3回目
- ②平和運動の担い手の端くれとして更なる見聞を広め、運動の前進とさらなる発展に向けて微力ながらも一助となるため
- ③ピースウォークをはじめ学習会や平和集会をつうじ、地獄のような惨状をもたらした原爆を投下されたという忌まわしい戦争の歴史と多くの尊い生命を無差別に奪っただけではなく、今なお罪なき多くの人たちに恐怖と悲しみを抱かせ苦しませ続けている現実、胸も張り裂けんばかりの悲しみがこみ上げてくる思いを何度も感じた。戦争は、何も得るものがなくマイナスの感情を生むだけのものである。私たち一人ひとりが考え、次代に繋がる平和を希求する活動を継続していくことがさらに大切だと気合が入る思いだった。



新井通巧

- ①6回目
- ②絶対に風化させてはいけないんだ、という認識を改めて持つため
- ③平和ヒロシマ集会で聞いた廣中さんの被爆体験談は、特に強く印象に残った。当時5歳での体験というが、いまでも鮮明に覚えていることが多くあるとのこと。40歳ごろからは身体に不調が現れてきているとのこと。放射能とは目に見えずとも人間の身体を蝕み、やがて死に至らしめる。誰が考えても、こんな兵器は地球上にあってはならない。



神永隆

- ①2回目
- ②被爆者の声を聴くこと、原爆の恐ろしさを体感すること
- ③広島は、被爆建物や被爆列車も現存しておりとても考えさせられた。「もし同じ時代に生きていたら、はたして自分が子どもを守れるのか？」など考え、被爆列車の乗車や原爆資料館・被爆建物を見て平和のありがたさを感じた。戦争の悲惨さ、原爆の悲惨さを後世にどのように伝えていくのか？戦後72年、体験者は高齢になり、お話を聴ける時間は少なくなってきている。ご講演いただいた被爆者のご息が一緒に伝えている姿を見て、私達の世代が考え、行動しなければならぬと改めて感じた。



中山格臣

- ①2回目
- ②平和学習を学びに
- ③被爆地から最も近い本川小学校を見学した。その時、学生たちに交じって被爆2世のボランティアさんの話を聞くことができた。広島、長崎だけでなく、埼玉をはじめ、日本中、世界中が8月6日と8月9日だけでも、原爆、平和のことを考えてもいいのではと思った。



国本典芳

- ①3回目
- ②広島の前・戦後を知り、今後日本が平和であるため
- ③ピースウォークを通して広島で起きた悲劇、悲惨さと核兵器の恐ろしさを改めて痛感した。そして被爆建物や資料館での当時の写真、展示品等を目の当たりにして言葉では言い表せない感情で目頭が熱くなった。又、被爆された方の話を聴き、写真や文章では伝えられない体験者だからこそ話せる当時の妻まじさげが伝わってきた。語り部の方も高齢になり被爆の事を伝える方も少なくなってきた。私達は平和行動をつうじて被爆死された方、被爆の後遺症で苦しんでいる方々の思いを受け継ぎ伝えていかなければならない。



新山元子

日程	平和行動 in 長崎	参加者
1日目(8/8) ■被爆72年「連合2017平和ナガサキ集会」 時間 15:30~17:30 会場 長崎県立総合体育館・メインアリーナ		中岡 誠一 (UAゼンセン埼玉支部) 中村 昌司 (UAゼンセン/LIXILビバ労働組合) 加藤 武男 (JAM埼玉/前澤工業労働組合) 高橋 巧 (川越・西入間地域協議会/パイオニア労働組合川越支部) 土屋 幸一 (朝霞・東入間地域協議会/サンケン電気労働組合) 小沢 圭介 (比企地域協議会/全ヤオコー労働組合) 久保 映次 (西部第四地域協議会/本田技研労働組合埼玉支部) 小林 隆志 (西部第四地域協議会/柳川精機労働組合狭山支部) 中村 孝男 (東部地域協議会/日本鉄管労働組合) 佐藤 智久 (北埼玉地域協議会/明和グラビア労働組合行田支部) 黒澤 富央 (連合埼玉青年委員会/アドバンテスト労働組合) 木村あずさ (連合埼玉女性委員会/日本電波工業労働組合) 近藤 正人 (連合埼玉副事務局長)
2日目(8/9) ■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 時間 10:30~11:45 会場 長崎市平和公園 ■ピースウォーク 時間 14:15~16:30 会場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園 ■万灯流し (原爆殉難者慰霊奉賛会主催・連合協賛) ※雨天のため、中止		

①5回目

②恒久平和について考えるため

③広島・長崎に原子爆弾が投下され、広島で12万人2千人、長崎で7万4千人余りの人々の命が一瞬にして奪われた時から、72年経った。たった1発の原子爆弾の威力と被害の大きさ、そして、いまでも放射能障害で苦しんでいる人たちのことを考えると、このような兵器の使用は二度とあってはならないと思った。先日核兵器を法的に禁止することを目的とした「核兵器禁止条約」が、国連で採決されたが、日本政府は、唯一の被爆国でありながら交渉会議に参加しなかった。被爆国として、「核兵器のない世界」を目指して世界のリーダーとなって欲しい。



中岡誠一

①初めて

②このような活動を後輩に継承するため

③「平和ナガサキ集会」「平和祈念式典」は、テレビや雑誌等で何度も目にした光景だが、実際にその場に出席すると今まで感じ得なかった感動がいくつも心に焼きついた。地元スタッフの活躍や多くの中学生・高校生世代の列席者。小・中学生の子を連れた家族の風景を目の当たりにして、もし自分が地元住民だったらと考えるのが恥ずかしくなった。この気持ちを後輩にしっかりと伝えたい。



中村昌司

①2回目

②平和への意識と継承

③広島同様、原爆投下時の状況やその後の地獄絵図となってしまった状況、そのような中で尊い命を亡くしてしまった人々、生き抜いてきた人々は激動の時代を歩んできたことをしっかりと受けとめなければならないと思った。また、私たちは、戦争の悲惨さや過去の出来事、平和への想いをしっかりと後世へ伝えていかなければならないと改めて感じた。世界の平和をめざす為にも、唯一の被爆国である日本が先頭となり世界へ発信していかなければならないと思った。



加藤武男



平和ナガサキ集会

①初めて

②原爆の被害を知り、平和について考えるため

③平和ナガサキ集会では、丸田和男さんからの被爆所の訴えや、ユース代表団、高校生平和大使のメッセージを聞くことができた。2日目は「平和祈念式典」と「ピースウォーク」に参加し、被爆者の方により平和への誓いや、被爆地の説明などを聞いた。今回、原爆の悲惨さを感じ、私自身も平和について考えることができた。原爆を二度と繰り返してはいけないと思った。そして、私たち自身が、核兵器の廃絶と平和を次世代へ伝えていく必要であると思った。



高橋巧

①2回目

②戦争と原爆そして平和

③今回の被爆72年「平和ナガサキ集会」そして「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」「ピースウォーク」に参加し、改めて「戦争・核兵器」について考えさせられ、「無関心」「忘れ去られる」「目を背ける」あってはいけないと痛感した。これまでは、連合埼玉からの平和の願いを込めた「折り鶴献納」の要請を受け、組合組織として目標数を達成していた。できれば、被災地に足を運んで「観て・聞いて・心で感じる」ことに勝るものはなく、これからも平和行動への継続的な活動と参加は大切だと感じた。



土屋幸一

①初めて

- ②原爆被爆地に赴き、平和について考える
- ③原爆投下から長い年月が経ち、被爆体験者が高齢化していき減少していく中で、風化させることが一番の恐怖だと感じ、核兵器断絶を訴える想いを次世代へ継承することの重要性を感じる事ができた。平和ナガサキ集会では、現地の学生さんたちが署名活動や募金活動をおこなっており平和についての想いを感じることができ、大変感銘を受けた。私たちも原爆被害国として原爆について、平和についてしっかりと考え全世界に訴えていかなければいけないと強く感じる2日間だった。



小沢圭介

①初めて

- ②戦争と原爆の悲惨さの再確認と平和の大切さ
- ③平和ナガサキ集会では、私より20歳以上も若い、戦争を知らない高校生平和大使の皆さんの日本国内だけでなく、世界規模での活動、スピーチに大変感動した。また、被爆者の訴えは、原爆投下は知っていたが、そこにある真実を聞き、大変貴重な体験となった。平和記念式典では、長崎市長による長崎平和宣言の中で、「もっとも怖いことは、無関心なこと、そして忘れていくこと」「長崎を最後の被爆地に」とあった。そのために被爆で受けた人々の苦しみ悲しみを、風化させずに、伝承させていかなければならないと強く感じた。



久保映次

①初めて

- ②原爆投下・戦争の悲惨さの実態を肌で感じる
- ③平和ナガサキ集会に参加して感じたことは、長崎では様々な平和に繋げる活動を知り、凄まじい出来事であったことを再確認したとともに戦争や原爆について自分が無関心であることを感じた。戦争や原爆投下について実際に見て、聞かせていただいたことで平和についての関心を持つようになり考え方が大きく変わった。今後、参加者である自分の責務は少しでも多くの人に平和行動で感じたことを伝えていき、少しずつではあると思うが自分なりの平和行動を進めていこうと考えている。



小林隆志

①2回目

- ②被爆地長崎の今の状況と、被爆直後の状況を確認し、今後の平和行動などの活動に活かすため
- ③被爆者の語り部たちが高齢になり、次の世代へ伝えていくことが大変になっていくと思うが、集会に参加した高校生平和大使やビデオメッセージをくれたユース代表団の活動を見ていると大変頼もしく思った。ピースウォークと原爆資料館では、原爆のすごさや悲惨さを目の当たりにして、長崎のあと第三の被爆地を作ってはならないと強く思った。ただ見ただけでよいのか、自分にできることはないのかと今までの平和に対する考え方を改めていかなければならないと強く思った。



中村孝男

①2回目

- ②戦争の悲惨と原爆の恐ろしさを認識するため
- ③長崎も広島も同様のことだと思うが、被爆者の方の高齢化により悲惨な体験を生む声で聴けなくなる時代が次第に近づいてきているという実感を受けた。その中でも、長崎市民や高校生達は、長崎を最後の被爆地とするとの強い意志と決意を持って活動している事に共感した。私たちにできることを考え、行動することで平和について話していきたいと思う。



佐藤智久



折り鶴献納

①2回目

- ②長崎の街の現状を見聞きし、核兵器の非人道性と被爆者について知識と理解をより一層深めるため。
- ③長崎への原爆投下から72年が経ち、平和集会では核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求める訴えがあった。被爆者からの実体験は、当時の悲惨な風景が想像できるほどの生々しい内容であった。原爆の被害を受け、亡くなった方々の為にも、核兵器はもとより戦争がなくなり、そして世界中の人々が尊重し合い平和な世の中になるよう慰霊式典で祈った。この平和行動での見聞きしたことを職場、家庭に持ち帰り、平和の尊さを伝えていきたいと思う。



黒澤富央

①2回目

- ②戦没者の慰霊と原爆投下地での惨状を学習するため
- ③原爆資料館や爆心地公園の遺構を目にして、当時の凄惨な状況に非常に心が痛くなった。被爆者の方々の高齢化が進み、四半世紀後には生の声は殆ど聞けなくなってしまうと思う。しかし、どんなに街が発展し安寧になったとしても、この地で何が起こったのかを忘れ去ってはいけない・風化させず後世に語り継いでいく必要があると強く感じた。日本は世界で唯一原爆を落とされた国として、その恐ろしさ・平和の尊さを世界に強く訴え、二度と核の悲劇を繰り返してはならないよう核廃絶に向けた取り組みをしてほしいと思う。



木村あずさ

ネットワークSAITAMA21運動

夏休み自然体験2017in尾瀬

挨拶する
大谷運営委員長

ネットワークSAITAMA21運動では、親子・家族などで尾瀬の自然に触れ、自然の大切さと保全の重要性などを学ぶ機会として『夏休み自然体験プラン』を設けている。本年度も、7月22日(土)～23日(日)の2日間、構成組織の組合員とその家族ら47名の参加のもと「夏休み自然体験2017in尾瀬」を開催した。なお、本年は67名とたいへん多くの応募をいただいたため、参加者は抽選とさせていただいた。

1日目(22日)は、尾瀬の自然の豊かさと環境保全の歴史についての学習会として、「尾瀬自然教室ギャラリー」を見学した後に、現地山岳ガイドの方よりスライド、模型を用いたわかりやすい説明を受けた。

2日目(23日)は、あいにくの天気ではあったが「尾瀬ヶ原コース」と「至仏山コース」に分かれ、環境保全状態を確認しながら豊かな自然に触れるウォーキング・登山をおこなった。今回の自然体験では、ニッコウキスゲをふくめ貴重な植物を多く見ることもでき、自然の豊かさを満喫するとともに、貴重な自然を人の手で汚すことのないよう保全していくことの重要性を考えるきっかけとなった。



自然を満喫



熱心に耳を傾ける参加者

ネットワークSAITAMA21運動

夏休み親子自然体験2017「山の学校inときがわ」

親子で自然に触れることにより自然環境の大切さを学ぶことを目的に、夏休みを利用して、『山の学校 in ときがわ』を本年も開催した。

8月11日(金)に「ふれあいの里たまがわ 川の広場バーベキュー場」で開催し、組合員とその家族およびスタッフ約140名の参加があった。

参加した子どもたちは、今年初めておこなったニジマスのつかみどりや川遊びに夢中になり、川水の冷たさを感じながら自然や生き物とのふれあいを思う存分楽しむことができた。

続いてのバーベキューでは、つかみどりしたニジマス親子でさばいたり、参加者自らが火おこしをおこなうなど、悪戦苦闘しながらも、家族で協力して調理し、食べるバーベキューは格別のものとなった。

また、食後には子どもたちがスイカ割りをおこない、糖度の高いスイカを参加者全員で味わうこともできた。

いまでも豊かな自然が残る都幾川で家族とともに過ごした1日は、子どもたちにとって、思い出に残る貴重な一日となることであろう。



ニジマスのつかみどり



川遊び

平成29年度 埼玉県最低賃金の改正決定について

埼玉地方最低賃金審議会は、本年7月5日(水)に埼玉労働局長から「埼玉県最低賃金の改正決定について」の諮問を受け、埼玉県最低賃金専門部会を設置し調査審議をおこなってきた。この審議会は本年7月27日(木)に中央最低賃金審議会より示された「平成29年度地域別最低賃金額改定の目安に関する公益委員見解」等を踏まえ、公労使での真摯かつ慎重な審議の結果、8月3日(木)に埼玉労働局長に対し、埼玉県最低賃金額を「時間額871円」とする旨の答申をおこなった。

この時間額871円は、現行の埼玉県最低賃金(845円)を「26円」引き上げるもので、上昇率は3.08%であり、時間額で決まるようになった平成14年度以降では、上昇率・上昇額共に最大の引上げ幅である。今後、諸手続きを経て本年10月1日(日)より効力を発生する予定となっている。

【参考:埼玉県最低賃金額及び対前年度上昇率・上昇額】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度(答申)
時間額	820円	845円	871円
対前年度上昇額	18円	25円	26円
対前年度上昇率	2.24%	3.05%	3.08%

現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 金	第2回地協議長・事務局長会議(14:00～・あけぼのビル501)	埼玉県公労使会議(10:00～・経営者協会会議室)
2日 土	埼玉シニア連合「第7回ボウリング大会」(10:30～・浦和スプリングレーンズ)	
3日 日		
4日 月		
5日 火	第10回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・ときわ会館)	熊谷・深谷・寄居地域協議会「第5回幹事会」(18:15～・ネット21熊谷)
6日 水		
7日 木		最低賃金審議会「特定最賃第1回合同専門部会」(9:00～・埼玉労働局)
8日 金	2017平和行動in根室(～10日・根室市)	
9日 土		電機連合埼玉地協「第57回定期大会」(14:00～・あけぼのビル5F)
10日 日		
11日 月	第9回官公労部門連絡会(19:00～・連合埼玉会議室)	北方領土教育者会議(15:00～・あけぼのビル502)
12日 火	①第4回ライフサポートステーション運営会議(10:00～・連合埼玉会議室) ②埼玉シニア連合「第5回四役会・第6回幹事会」(13:30～・15:00～・連合埼玉会議室)	運輸労連埼玉県連「第50回定期大会」(13:30～・さいたま市民会館おおみや)
13日 水	対県要請(14:00～・知事室)	
14日 木		2017全国高齢者集会(13:00～・文京シビックホール)
15日 金		①退職者連合「2017地方代表者会議」(9:00～・ホテルルポール麹町) ②連合「第6回構成組織・地方連合会女性代表者会議」(14:00～・連合会館) ③東部ブロック労福協「2017年度ライフサポート事業経験交流」(14:00～・9/16・あけぼのビル5F)
16日 土	ネット21「飛び出せ!シニアセミナー2017(第1回)」(13:15～・さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター)	
17日 日		
18日 月		
19日 火		「埼玉県地域両立支援推進チーム」第1回会議(13:00～・埼玉労働局)
20日 水		①埼玉労福協企画委員会(10:00～・ときわ会館) ②関東ブロック「オルガナイザー研修会(導入編)」(10:30～・連合東京会議室) ③朝霞・東間地域協議会「第4回幹事会」(18:30～・ピアザふじみ)
21日 木	第27回チャリティゴルフ大会(おおむらさきゴルフ倶楽部)	
22日 金		
23日 土	ネット21「飛び出せ!シニアセミナー(第2回)」(13:00～・さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター)	中央労金労組埼玉統括支部「第17回総会」(10:00～・中央労働金庫さいたまビル501会議室)
24日 日		①比企地域協議会「政策制度研修会・幹事会」(～25日・福一) ②埼玉労福協「役員研修会・理事会」(～25日・福島県)
25日 月		連合「オルガナイザー研修(フォローアップ編)」(～26日・ホテルスプリングス幕張)
26日 火	女性委員会「第7回幹事会」(18:00～・連合埼玉会議室)	
27日 水	メンタルヘルス研修会(基礎編)(10:00～・16:30・あけぼのビル3F)	
28日 木		電機連合埼玉地協「東日本大震災ならびに熊本県を中心とする九州地震復興支援第24回チャリティゴルフ大会」(東松山カントリークラブ)
29日 金		連合関東ブロック「2017政策フォーラム」(13:30～・ホテルラングウッド)
30日 土	災害ボランティア救援隊「継続実施研修(中級編)」(13:00～・あけぼのビル3F)	比企地域協議会「第4回チャリティゴルフ交流会」

Akebono Building
あけぼのビル

事務局長 | 佐藤 道明 |

◆13年ぶりに前年を上回った「自己破産申し立て」

全国の裁判所に対する個人の自己破産申し立てが、2016年は前年比781件増の6万4637件となり、13年ぶりに前年を上回ったことが2月10日、最高裁の速報値で分かった。貸金業者への規制強化によって、自己破産申し立て件数はピークだった2003年の3割未満まで減ったが、最近では銀行が個人向けカードローン事業を強化しており、「こうした動きが自己破産の増加につながっている」と指摘する専門家もいる。

今、テレビやインターネットで銀行カードローンの広告を目にするのは日常茶飯事であり、「手続きは30分」「銀行だから安心」、こうした、うたい文句で銀行カードローンの利用者は急速に増大している。

貸付残高は2012年12月期の3兆4,367億円から2016年12月期には5兆4,377億円と短期間で急増し、高金利や返済能力を超えた過剰融資で自己破産に陥る人も急増している。

◆銀行カードローンの危険性

なぜ銀行は過剰な融資をおこなうのか。利用者が返済不能になれば銀行にも損失が出るのではないのか。ところが、銀行カードローンビジネスは多くの場合、銀行単体ではなく消費者金融と連携している。消費者金融は利用者にとだけ貸せるかを審査し、銀行はそのノウハウを消費者金融に頼っているとされている。審査を請け負う消費者金融は、もし利用者が返済不能になった場合、銀行の損失額を全額保証する。そのため、銀行は一切損をしない仕組みなのである。一方、消費者金融も、銀行から多額の手数料を受け取れるため、たとえ一部の利用者が返済不能になっても、全体として儲けは維持できる仕組みのようだ。

今回の銀行カードローンの問題は、今から10年以上前の消費者金融問題と深くつながっている。当時、消費者金融による3K、「高金利・過剰な貸出・過酷な取り立て」が多重債務者を増加させ社会問題化した。

2006年に改正貸金業法が成立し、原則として利用者の年収の3分の1までしか融資できない「総量規制」が導入された。改正貸金業法の成立により貸金業者への規制が強まり、その後、法律の狙いどおり、消費者金融からの貸出は減少した。しかし、この規制がかかるのは貸金業者だけであり、銀行は対象外で年収の3分の1を超えて融資するケースもある。多くの銀行が個人向け取引に力を入れており、先にも述べたが2016年末のカードローン残高は、5兆4,377億円と18年ぶりの高水準に達した。

10年前に比べて、消費者金融の貸付が10兆円減少し、銀行カードローンが2兆円増加しており、消費者向け無担

保ローンのマーケット自体はかなり小さくなっている。しかし、銀行カードローンの利用者は決して多重債務者ばかりではない。誰しも急場の資金が必要となることがある。また、公的な機関はもちろん、知り合いにも言いにくいような理由でお金が必要になるケースもあるだろう。そう言った需要を銀行が拾っているのが、銀行カードローンが急増している要因のひとつかもしれない。

◆〈ろうきん〉との連携で「クラシノソコアゲ実現」

連合関東ブロック連絡会では、連合が掲げる「クラシノソコアゲ実現」に向けて、労働者自主福祉運動の担い手である中央労働金庫と連携し、統一的な取り組みを実施することとした。連合埼玉は中央労働金庫埼玉県本部と連携し、組合員の生活防衛に資するため、以下の3項目について構成組織・加盟組合と共に取り組み、安心・低金利な〈ろうきんカードローン〉「マイプラン」への新規契約ならびに借り換えを推進する。

1. 組合員に対する啓発活動の徹底

連合の進める「クラシノソコアゲ実現」の取り組みをつうじ、社会問題化しつつある「多重債務問題」について中央労働金庫埼玉県本部と連携し、機関誌等の媒体を活用した啓発活動を展開するなど、組合員に対する注意喚起を強める。

2. 多重債務に陥らないための学習機会の提供

組合員(とりわけ若年層)に対し「多重債務問題」について中央労働金庫埼玉県本部と連携し学習会を開催するなど、カードローン等について商品性の違いや賢い利用方法について学習機会を提供する。

3. 既利用者(カードローン等)に対する借り換え提案の実施

既利用者については、可処分所得の向上を目的に中央労働金庫埼玉県本部と連携し借り換えの試算をおこない、家計の改善が図られる場合は借り換えを提案するとともに、組合員における利用環境を整備するため、中央労働金庫の利用にあたり自主規制を設定する構成組織は見直しに向けて協議を進める。

(「銀行等によるカードローンの過剰貸付に対する取り組みについて」第7回執行委員会確認)

◆なぜ、〈ろうきん〉なのか

〈ろうきん〉は、労働組合や生協などの働く仲間がお互いを助け合うために資金を出し合っつった、協同組織の金融機関である。営利企業である銀行とは違い、〈ろうきん〉の目的はあくまでも、働く仲間のくらしの役に立つことであり、利益はそのために必要な範囲で確保している。

金融をつうじて、働くみんなのくらしを守り、応援することが〈ろうきん〉の役割であり使命である。企業への融資が中心の銀行とは異なり、働く仲間から預かった資金を、大切な共有財産として、住宅・教育・マイカーなど働く仲間とその家族のくらしを守り、より豊かにするために役立っている。

組合員の「クラシノソコアゲ実現」のために、〈ろうきん〉と共に取り組みを進めよう。

2017.8.25